松本市教育研修センターだより

No.11 令和５年３月９日

働き方改革フォーラム　波田小の働き方改革に学ぶ
～「変わる勇気と変える強さを夢や希望へ」～

２月２１日(火)、**働き方改革フォーラム「波田小の働き方改革に学ぶ」**をオンラインで開催しました。松本市から３１校、県内外から２７団体・個人の皆さんが参加され、波田小の実践から学び合いました。

波田小学校は、経済産業省「未来の教室」事業を受託した「先生の幸せ研究所」の支援を受け、働き方改革の推進に取り組んできました。そして、保護者や地域の方々の全面的な協力を得て、年度途中の１１月から下校時刻を４０分早める新しい日課を導入するなど、思い切った改革に踏み出すことに成功しました。フォーラムでは**染川教頭先生が、「学校の取組み・職員集団の戸惑いと団結・管理職の決意・保護者や地域の方の思い」**などを語ってくださいました。**「先生の幸せ研究所」代表　澤田真由美氏と、松本市教育顧問・信州大学准教授　荒井英治郎氏**からも、この実践のよさや学ぶべきポイントについてコメントをいただきました。その主な内容を紹介します。

波田小の実践報告　から　～「変わる勇気と変える強さを夢や希望へ」～

1　働き方改革を推進する上で必要だとわかったこと

(1)チームで取り組みために　～「本気で変わる・変える」を示すこと～

はじめの一歩は、管理職から･･･先生方が負担だと感じていることを変える

⇒一人の負担をみんなが、少しだけ負担すれば変わることを実感する

(2)対話を通して、それぞれの思いや考えを共有すること

大規模校でより多くの職員の意見を取り入れ、「対話」を促進するために

「ジャムボード」を活用…ICT 研修と兼ねて、得意な先生が苦手な先生をサポートする

⇒わからない、できないことはいけないことではなく、新しい学びのチャンスになる

お互いにサポートし合うことが、自然にできることはとても素敵なことであり、うれしいこと

2　「日課の変更」への歩み　～まずやってみる～

(1)これまでの「あたりまえ」を疑い、削減できるものを考える

みんなの意見を聴き、できるところから取り組む(小さい成功体験を積んでいく)

「日直当番を廃止し、一人一人が少しずつ責任分担場所の施錠をする」など

(2)子どもの生活時間を重視し日課を変更

電車通学の関係で下校時刻が決まるので、試行しながら日課を変更。冬季など16時下校では、家が遠い子どもは、真っ暗の中、帰宅することになる。子どもの安全のためにも下校時刻を早める。

(3)地域や関係機関との連携を図る　～子どもたちのために～

⇒「見守り下校」 学校応援団、波田小コミュニティ・スクールの方々の温かい子ども支援

⇒児童センター、放課後デイサービス、給食センターの方々が「シフト替え」をして対応

3　プロジェクトを推進する中で見られた先生方の思い、これまでと変わったと感じること

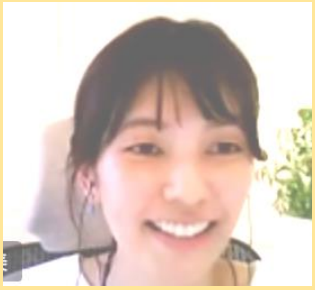
○「みんなが参画する」令和５年度教育計画プロジェクトへ　～先生たちの主体的な提案～

⇒新たな日課でいただいた時間を「私たちの学びの自己更新時間」とする。

そして、私たちが子どもを中心に据え、子どもが主人公の教育活動(子どもがやってよかったと思う授業や活動1つでも)を創り、それを子どもに還元していく。

4 変わる勇気と変える強さを夢や希望へ　～「未来の教室」は、私たち自身で創ることができる～
＊子どもに寄り添った授業づくり・学級づくり、子どもとともに歩む学校を創ることができる
令和５年度は、「子どもとともに心に残る活動、授業をしよう」を合(愛)言葉にしていきたい。

【先生の幸せ研究所　澤田真由美　代表のコメント】



波田小の実践は、単なる時間づくりだけではない本当に意味のある価値のある取組みでした。**対話**という言葉が何回も出てきましたが、話し合うことがいかに**組織を元気にする**か見てきました。
先生が幸せでいることは、必ず子どもによい影響があると思っていました。それを波田小が実践してくれました。先生たちが成功体験を積んでちょっとできた、じゃあ次もできるかも、できるかも…というサイクルを生む、それが**プロジェクト型業務改善**のポイントです。波田小学校は、まさにそれを体現してくれました。今回のようにプロジェクト型で先生たちの知恵を生かしてやっていくタイプの取り組みというのは、先生たちの授業改善につながっていくなと感じています。まさに**先生たちのプロジェクト学習、先生たちの探究学習の営み**だなと。自分たちの職員室の課題を自分たちで頭を使って知恵を出し合い変えていく。まさにこれから子どもたちにつけたいと思っている**探究力、生きる力という体験して実感**したからこそ育っていくというもので、先生たちご自身が一番身近な社会である職員室をよりよくするという体験を通して、変わっていく成長していく、だから**子どもたちにも向ける眼差しがより優しく**なっていく、そんな循環がまさに**業務改善することで、教室での先生たちのあり方や資質が向上する**ということにつながるかなと思います。

【松本市教育顧問　信州大学　荒井英治郎先生のコメント】

「変わる勇気と変える強さ」という素敵なキーワードが発表タイトルにつけられています。松本市の教育行政や教育現場は、「子どもを主人公」として位置付けていくこと、「子どもを中心に据えながら物事を決めていく」ことを大切にしていこうとしています。その意味でも、働き方改革は、**単なる「時短改革」ではありません。**勤務時間が減った、増えたという議論ではなく、働き方改革の先を見据えて、今、そして、これから向き合うべきことは何であるのかという本質的な目的、つまり、**「働きがい」と「働きやすさ」の両立**を追求していくことを通じて、**子どもを中心に据えた学校づくり**を進めていくことの実現を目指すべきだと思います。

働き方改革のポイントは、**自分たちの働き方を、自分たちで捉え直し、自分たちで決めていけるか**にあります。私は、これからの学びのあり方として、様々な体験・体験を通じて「**自己決定貯金**」を貯めていくことを重視すべきであると考えていますが、子どもたちだけではなく、教員集団もそうした**クリエイティブ**な作業を積極的に行っていく必要があると考えています。

波田小学校の取組は「挑戦事例」となりますが、今後「成功事例」へと位置付けていくためにも引き続き、**自分たちで考え、具体的なアクションを起こしていく**ことが求められています。その場合、**学校は、「学び続ける組織」として存在感**を示してくるのではないかと思います。

「対話」は、言うのは簡単ですが、実際に実現するのは難しいことです。染川教頭先生のコメントにもあった「**対話できることの嬉しさ**」ということを体感されたことは素晴らしい財産です。**泥にまみれながらも、非効率で、でも期待せざるを得ない「対話」**を引き続き大事にしていってもらいたいです。

動画をアーカイブにて配信しています。ご希望の方は、教育研修センター（e-kensyu@city.matsumoto.lg.jp）**までご連絡ください。**